

季刊  
ジャズ批評

特集 **ジャズ・ギター** ジャズ・ギタリスト大カタログ FROM A TO Z  
 代表的アーティスト紹介: ジャズ・ギター・アーティスト名鑑  
 [CD] ジャズ・ギターの歴史 1890~1990  
 さまざまなギター: ロック/ブルース/C&W/家サ/ソウノ/クラシック

BOOKS AND RECORDINGS — BOOKS

## ジョシユア・ブレイクストーン

細かい所に神経の行き届いた演奏  
 良い意味で白人ギタリストのサンブル

— 一九五五年 第三十二回ニューシャーシ州選りベストアルバム —

今、ジャズ・クラブで一巻巻いてたいギタリストは？ と問われたらジョシユア・ブレイクストーンと答えたい。とにかく八〇年代にアルバム・デビューしたギタリストの中では最もサトルで情緒に富み、円熟した味わいをもつ若手ギタリスト

だ。スタイルは五〇年代のサル・ワグナル、パレードにはジミー・レイニーの影響も感じさせる。良い意味で白人ギタリストのサンブルのような持ち味だ。九〇年代このような古めかしいスタイルでどうするの？ という口の悪いファンに



① [Echoes/The Joshua Breakstone Quintet] (Contemporary C-14025) ② [Pepper Adams (In) Joshua Breakstone (G) Kenny Barron (B) Dianne Brown (Dr) Keith Copeland (Sd) Feb. 15, 1986, NYC P.A.] ③ [Oblique] ④ [It's Easy To Remember] ⑤ [My Heart Shone For You] ⑥ [Even Steiner] ⑦ [To Mark With Love] ⑧ [Best Song]

は、スタイルは音楽の価値を左右するものではないといつておこう。クラブで聴いてみた理由は彼の演奏がサトルだからというだけではなく、コード・ワークが非常に洗練されていて無駄がなく、シンブルにして表情があるからだ。おそろくコードを相対神経を運っているからだろう。ギターを一度でも使ったことのある方なら、同じ音を使ったコードを弾きながらにも幾多ものやり方があるものを知りたがる。コードの音色にも気が配らる。ナイフで細かく、ところに神経の行き届いた演奏は、やはりスタイルではなく演奏を水平にもってけるクラブが一番だ。さてブレイクストーンのアビュ作「ワンダフル」と第二作「411」はともにカナダのソノラというマイナーレーベルに吹き込まれたものだった。ボクはビュイ作が出た時、ニューヨークの



① [411/The Joshua Breakstone Quartet Featuring Kenny Barron] (Canaan) Fantasy Records, SA 322) 上記2作はギター・アルバム・トワイ、録音

ジャズクラブ「ブルーノート」で彼が自分のアルバムを演奏、レコード会社のプロデュースに売り込んでいる現場を目撃したことがある。競争の激しいニューヨークで彼はいかに自分のプレイが秀れたものであるかを、機軸を感じさせず語っていた。ガッツがある奴だった。あれと、彼からアレシンドといひ出していたが、八七年に急逝かなってアメリカのジャズ・レーベル、それも老舗のコンチンポラリーからエコーズ①②③を発表した。ウェスタン勢で目を固めながらも、しっかりと自己主張している好作品であった。(解決てつや)